

豊岡市記者配布資料

年月日	部課名	電話	責任者 (役職名)
2023年 10月26日(木)	観光文化部 文化・スポーツ 振興課	0796-21-9012 (内線 5421)	武縄真明 (文化財室長)

(件名)

市指定文化財(絵画・彫刻)の新規指定

(内容)

本市は、文化財保護審議会(会長 上田尚志)の答申に基づき、別紙の絵画2件と彫刻1件を新規に市指定文化財としたので、その概要について下記のとおりお知らせします。

記

1 新規指定される物件

- (1) 絹本著色両界曼荼羅図(絵画-室町時代半ば)
- (2) 絹本著色弘法大師画像(絵画-室町時代前半)
- (3) 木造毘沙門天立像(彫刻-平安時代後半)

2 所有者

宗教法人水生山長楽寺

3 所在地

日高町上石 664

4 参考

本市指定文化財(絵画・彫刻)の件数

種別	これまで指定件数(A)	今回答申件数(B)	合計(A+B)
絵画	21	2	23
彫刻	31	1	32
合計	52	3	55

5 その他

詳細は、別紙の概要を確認してください。

《問合せ》

観光文化部文化・スポーツ振興課文化財室(担当: 谷岡)

TEL 0796-21-9012(内線 5424)

長楽寺所蔵の新規指定文化財概要

1 絹本着色両界曼荼羅図

両界曼荼羅図は、胎蔵界曼荼羅図と金剛界曼荼羅図の2つからなり、密教において宇宙の象徴とされる。

胎蔵界・金剛界ともに最も重要な大日如来は鮮やかな朱を地色として、金泥で精緻な文様が描かれ、尊格による描き分けが観られる。特に、胎蔵界大日如来の条帛にみられる唐草文様は、動勢の内に弾力性を感じさせる筆致が見事である。

各尊とも頭部が大きく、手足が細く表現されるなど、室町時代の仏教絵画にみられる特色が看取される。画絹は目が粗い「室町絹」と呼称されるものである。

両曼荼羅の軸裏に銘文から1657年（明暦3年）と1842年（天保13年）に長楽寺が檀家の助力を得て補修したことが分かるなど、大切に守り伝えられてきた。



2 絹本着色弘法大師画像

空海を描いた画像である。本図の表現をみると、全体を描き起こす謹直な線描、衣文にみられる太い力強い線、眉にみられる細い線描を重ねて質感を表す技法など習熟している。経年変化と修理の過程の処置により、一部彩色が剥落している点が悔やまれるが、当初の像容を比較的忠実に保っている。

唇の周囲を濃く、内部を薄く塗ることで立体感を表出する技法、指の爪を長く伸ばす描き方は中国の宋・元由来である。これに加えて、やや目の粗い絹などを考えると、14世紀後半から15世紀前半の制作とみられる。



3 木造毘沙門天立像

本像は小さめの等身大である。左袖などに制作当初のものとみられる彩色が残存している。内部はくりぬかれていない（内刳りがない）。

10世紀半ばから後半にかけて造立された、京都・六波羅蜜寺、京都・清涼寺などの四天王像の造形を一段柔らかくした表現といえる。上記のような表現上の特色と、内刳りを施さない古様な構造から、制作年代は11世紀前半に遡ると推定される。

